

ナシ黒星病（秋型病斑）の発生が多い状況です

翌年の発生を抑えるために、秋季防除や落葉処理を徹底しましょう。

[発令の内容]

作物名 : ナシ
 病害虫名 : 黒星病
 発生量 : 多い
 発生地域 : 県下全域

[発令の根拠]

- ① 本年 5 月～9 月における黒星病の発病葉率は平年より高かった（図 1）。
- ② 10 月中旬現在, ナシ黒星病の秋型病斑（写真）の発生地点率は平年より高い（本年:94%, 平年:56%）。
- ③ 特に県西地域におけるナシ黒星病の秋型病斑の発病度*は平年より高い（図 2）。

※1 圃場当たり 300 葉について発病の有無を調査し、葉裏面の病斑面積率から算出した値

$$\text{発病度} = ((2A+B) / 2 \times 300) \times 100$$

A : 病斑が葉全体の 1/2 以上に分布する葉の枚数。 B : 病斑が葉全体の 1/2 未満に分布する葉の枚数。

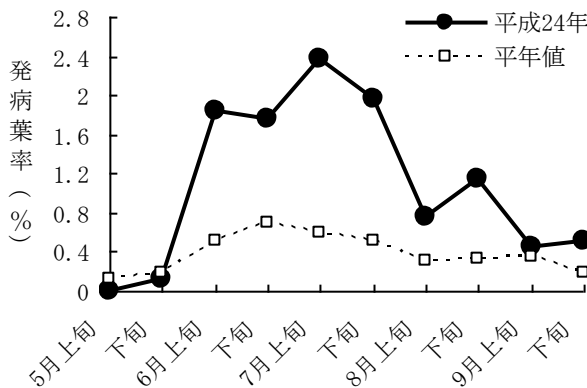


図1 ナシ黒星病の発病葉率の推移
 (上旬は 8 地点, 下旬は 18 地点の平均値)

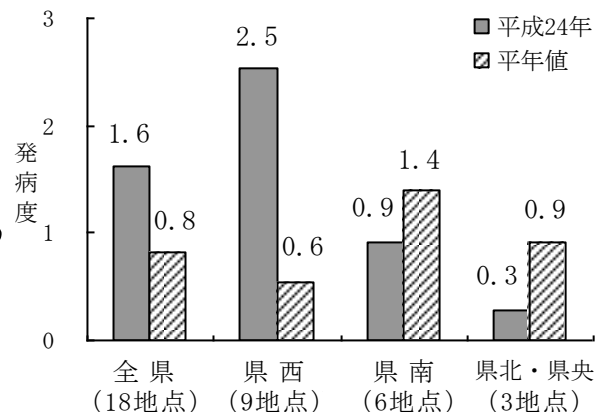


図2 ナシ黒星病の秋型病斑の発病度*

[防除対策]

- ① 秋型病斑上に形成された分生子は 10～11 月の降雨時にりん片へ感染し、翌年の伝染源となるため、表及び平成 24 年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考に 2 回程度の秋季防除を行う。ただし、黒星病が多発生した園では追加防除を行い、秋季防除を徹底する。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に、徒長枝の先端までかかるよう丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ③ 発病した葉は翌年の一次伝染源となるため、落葉は集めて土中深く埋めるかロータリー耕によりすき込む等、落葉処理を徹底する。

表 ナシ黒星病に登録のある主な薬剤（平成24年10月10日現在）

薬剤名	希釈倍数	本剤の使用回数	有効成分	有効成分の総使用回数
オキシラン水和剤	500～600倍	9回	キャプタン	9回
			有機銅	9回
キノンドーフロアブル	1000倍	9回	有機銅	9回
オーソサイド水和剤80	600～1000倍	9回	キャプタン	9回
チオノックフロアブル トレノックスフロアブル	500倍	5回	チウラム	5回 (休眠期-1回)
デランフロアブル	1000倍	4回	ジチアノン	5回

(注) 農薬散布の際には、必ず農薬ラベルを確認してください。
農薬のカウントはナシの場合は収穫後から始まるため、翌年の生育期の使用回数に注意してください。



写真 葉裏に発生したナシ黒星病の秋型病斑